

## ② 鬼怒川・小貝川流域におけるマイ・タイムライン検討の取組

**キーワード** 避難行動の取組み、作成手法の確立、水防災意識社会の再構築

**受賞機関** 鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会  
鬼怒川・小貝川上流域大規模氾濫に関する減災対策協議会

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

平成27年の関東・東北豪雨災害を受け、被災した住民と連携して、住民一人一人が的確な避難行動を取ることが重要との認識のもと自分自身のマイ・タイムラインを作成した取組み。マイ・タイムライン作成の手法確立・実施を全国で初めて行った点や、その後全国的にマイ・タイムラインが広がっている中、さらに低年齢層への普及ツールとして「逃げキッド」を開発・活用するなど先駆的な取組みが評価された。

### 1. はじめに

平成27年9月に発生した関東・東北豪雨では、鬼怒川下流部の堤防決壊などにより、常総市の面積のおよそ三分の一に相当する40km<sup>2</sup>が浸水し、自衛隊、消防等が合わせて約4,300名を救助するなど、避難の遅れが発生した。

これを受け、鬼怒川・小貝川流域の市町、県、国で構成する減災対策協議会では、「逃げ遅れゼロ」等为目标に掲げ、「避難行動」、「水防活動」、「排水活動」の取組を3本の柱としてソフト対策を進めているところである。

### 2. 事業の概要

マイ・タイムライン検討の取組は、「避難行動」の取組の具体的施策の一つとして、住民一人ひとりに直接働きかけ、自ら考えてもらうことを目的に、水防災意識社会を再構築するため実施してきたものである。円滑な避難のためには住民一人ひとりがそれぞれに合った的確な避難行動を家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」、「誰が」、「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理した自分自身の防災行動計画（マイ・タイムライン）作成の手法確立・実施を行った全国初の試みである。

### 3. 事業の成果

#### <モデル地区における検討>

平成28年度は、マイ・タイムラインの検討手法の確立を目指し、関東・東北豪雨で被害を受けた茨城県常総市の若宮戸地区と根新田地区を選定し、住民の方々に協力して頂き検討を行った。

モデル地区での検討により、3つのステップ（①：地区の洪水リスクを知る、②：洪水時に得られる情報を知り、タイムラインの考え方を知る、③：マイ・タイムラインの作成）によるマイ・タイムラインの作成手法を確

立した。

また、3つのステップを踏むことにより、「リスクを認識できる」、「逃げるタイミングがわかる」、「コミュニケーションの輪が広がる」などの効果が得られ、マイ・タイムラインが実際の避難時の有効なツールとなることを確認したが、作成するのに半日の時間がかかっていた。

#### <マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」の開発>

平成29年度は、小中学生向けのマイ・タイムライン検討用教材を開発し、45分で作成できるよう9月1日に行われた常総市小中学校一斉学校防災訓練の枠組みにおいて、6校、約830名を対象に試行を実施した。学校教員等の意見を聞きながら、並べ替えクイズやシールの活用など、作成したくなるような様々な工夫が行われ、小中学生を含めた多くの住民が楽しく、マイ・タイムラインを作成することができる、検討ツール「逃げキッド」が完成した。

#### <様々な機会・対象への実施>

平成30年度は、さらに多くの方にマイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を活用し、減災対策協議会主催の作成講座の実施や、各自治会や学校からの出前講座に応じる形での講座の実施など、流域各所で、実施し作成者数はのべ約10,000人に到達した。

### 4. おわりに

これらの作成手法の確立後、鬼怒川・小貝川流域だけでなく、全国にマイ・タイムラインが広まり作成が進められるに至っている。

「どのように避難すればよいか分かった」、「家族と防災を話すきっかけになった」などの意見をいただくなど、住民一人ひとりに直接働きかけることにより、水防災意識社会の再構築に効果を発揮している。

